

# 第447回鉄鋼流通問題懇談会

2019年1月21日（月）14:30

4階・日本鉄鋼連盟・第一会議室

## 議 題

1. 配布資料説明（全鉄連）
2. 全鉄連情勢報告
  - (1) 地区の状況
    - 東京、大阪、愛知、東北、新潟地区概況報告
  - (2) その他地区の概況
    - 鉄流懇1月例会で発表の各地区業況アンケート結果
  - (3) 総括：阪上全鉄連会長
3. 意見交換
4. 経済産業省挨拶
5. 鉄流懇会長挨拶
6. その他

○次回以降会議予定

2019年4月25日（木）14:30～

於：茅場町「鉄鋼会館802・803」

	薄板	厚板	棒鋼・形鋼
<p>1. 需給動向 (景況感)</p>	<p>11月末の薄板三品在庫は、4,136千トン、前月比▲124千トンとなり、前同、発注の8月在庫4,980千トンと比べて、▲254千トンとなっている。台風の影響もあり、出荷が停滞した製鉄所在庫は、11月で1,816千トンとなり、前月比▲202千トンの大幅減少となっている。受調需要も減少傾向、供給側は、ライントフルは、11月末より更に減少するのと思われ、店売り市場は、先々のタイト感を懸念してSPOT引合が増えた時期もあったが、年末という事に加え、輸入材の安値 Offer から様子見という感じで、荷動き自体が弱体化しているという印象は無い。</p>	<p>11月末の全国中板在庫は382千トンで前月比9,789トン増、受け入れ量が出荷を上回った結果、在庫増となった。在庫率は全国平均で前月比13.4ポイント上がり206.6%となった。適正在庫率と言われた200%を10月には下回り、一部のサイズで値上げが見られる。建築、橋梁、建機等向け需要から、建設現場の工種別需要により、東名阪で若干の感度が出ている。よって売戻り一般切取価格も強含みながら上昇加に欠ける。</p>	<p>11月の全建築物の着工床面積は、1,119万㎡、前年同月比3.4%減。前月の増加から再び減少。公共の建築量は、51万㎡、前年同月比14.7%増、8か月ぶりの増加。民間の建築量は、1,068万㎡、前年同月比4.1%減、先月の増加から再び減少。11月実績の内非木造物件は、前月比3.9%減、前年同月比5.3%減の623万㎡だった。4ヶ月連続で前年同月比を下げた。このうち鉄筋コンクリート(RC)造は、前月比6.4%減、前年同月比13.3%増の194万6千㎡、鉄骨(S)造は、前月比6.4%増、前年同月比8.9%減の412万2千㎡、鉄骨鉄筋コンクリート(SRC)造は、前月比58.6%減、前年同月比68.1%減の8万2千㎡。前年同月比はRC造が9ヶ月振りに77%、S造は2ヶ月ぶりに77%、SRC造は4ヶ月連続でマイナスとなった。</p>
<p>2. 需要産業動向</p>	<p>11月の普通鋼輸入量は、前年同月比▲6.9%の38万3,000トンに減少した。台風影響によるダンク出荷で10月は一時的に急増していたが平常に戻った。主要品種別では、熱延鋼板が、前年同月比▲15.4%の11万7千トン、冷延鋼板は、同▲6.2%の8万5,000トン、亜鉛メッキ鋼板が、同▲17.9%の7万6,000トンとなっている。一方で普通鋼輸出は、前年同月比▲1.3%の189万9,000トン、2ヶ月振りに減少。主要品種別では、熱延鋼板が、前年同月比▲6.6%の78万9,000トン、冷延鋼板が同▲16.9%の18万5,000トン、亜鉛メッキ鋼板は、▲1.3%の23万7,000トンとなり、国内ミルの輸出余力が少ないうるの表れと言えらる。</p>	<p>11月の輸入関税関税は前月比5,276トンの増、前年同月比では29%の大幅増となった。小形棒鋼の11月の輸出は、前月比16.7%減、前年同月比35.5%減の18,306トンと、2ヶ月ぶりに2万トンを下回った。</p>	<p>11月の輸入関税関税は前月比5,276トンの増、前年同月比では29%の大幅増となった。小形棒鋼の11月の輸出は、前月比16.7%減、前年同月比35.5%減の18,306トンと、2ヶ月ぶりに2万トンを下回った。</p>
<p>3. 輸出入動向</p>	<p>2018年11月度鋼管輸出入量 縦目無鋼管：3万7,078トン (前月比▲14.5%) 溶接鋼管：3万0,148トン (前月比▲11.3%)  2018年11月度鋼管輸入量 縦目無鋼管：1,869トン (前月比▲1.7%) 溶接鋼管：1万4,607トン (前月比▲1.0%)</p>	<p>中国は国内需要減少と米国向け通商問題で急激に輸出余力が出てきており、価格もここ2か月で大幅に下落。旧正月までは低価格推移と思われ、韓国では過剰供給が依然懸念されているものの、韓国では過剰供給が依然懸念されているものの、中国につられて韓国材も軟化傾向。日本向けオフアナーは下げられていないが今後軟化が懸念される。</p>	<p>中国は国内需要減少と米国向け通商問題で急激に輸出余力が出てきており、価格もここ2か月で大幅に下落。旧正月までは低価格推移と思われ、韓国では過剰供給が依然懸念されているものの、韓国では過剰供給が依然懸念されているものの、中国につられて韓国材も軟化傾向。日本向けオフアナーは下げられていないが今後軟化が懸念される。</p>
<p>4. 海外市場動向</p>	<p>油井管・ラインパイプ&gt;18年下期WTIは10月3日の\$76.41/バレルをピークに下落し12月24日には\$42.53/バレルとなり、下落率は44%となった。下落の背景は米中関係の問題を中心とした世界的な経済の下落懸念や、米国での原油生産が過去最高値をつけたことなどが挙げられる。油井管の消費量はリガカウンターの安定という背景からほぼ横ばい、微増。</p>	<p>中国国内の鋼材市況は(11月末時点) 環境規制による減産規模が予測を上回ったほか、足下の需要も冬季の不要期に入ることから下落した。異形棒鋼はトナリで前月末比648元安い4064元(約66千円)。こうした中、中央政府は大型のPPA投資計画など景気支援策を講じており、市況は、底を打った状況。韓国国内の鋼材市況は80万~79万~81万円で推移している。中国国内はこれを下回る78万~79万円で出回っているが、各メーカーも不要期に入っていることもあり需給バランスに気を付けており、国内市況を落とさないよう手を尽くしている。</p>	<p>中国国内の鋼材市況は(11月末時点) 環境規制による減産規模が予測を上回ったほか、足下の需要も冬季の不要期に入ることから下落した。異形棒鋼はトナリで前月末比648元安い4064元(約66千円)。こうした中、中央政府は大型のPPA投資計画など景気支援策を講じており、市況は、底を打った状況。韓国国内の鋼材市況は80万~79万~81万円で推移している。中国国内はこれを下回る78万~79万円で出回っているが、各メーカーも不要期に入っていることもあり需給バランスに気を付けており、国内市況を落とさないよう手を尽くしている。</p>

発表者	メーカー JFEスチール
発表項目	<p>1. 需給動向（景況感）</p> <p>（国内）・日本経済は緩やかな回復基調を続けており、12月の日銀短観では企業の景況感を表す業況判断指数（DI）が大企業・製造業でプラス19と前回9月調査から横這い（4四半期ぶり下げ止まり）となった。石油・石炭など素材業種が改善したものの、産業機械などの業種が悪化している。米中貿易摩擦の影響等による海外の需要減速が意識されており、輸出企業を中心に景況感の悪化が今後の懸念となっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家計部門については、物価上昇の影響もあって11月の小売業販売額が13ヶ月連続前年同月比でプラスとなり、雇用環境も引き続き企業の人手不足感が強く、堅調となっている。</li> <li>・部門別活動状況は、製造業部門は11月の自動車生産が2ヶ月ぶりにプラス、11月の機械受注実績は2ヶ月連続で前月比増となった。</li> </ul> <p>また、建設部門は大型再開発案件や民間土木向けを中心として安定的に推移している。</p> <p>（海外）・中国では貿易摩擦による先行き懸念の影響もあり、自動車販売台数などで減速がみられているものの、その他の米国、欧州やASEAN諸国は全体的に緩やかな回復傾向が継続している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1/8に公表された世界銀行の見通しでは世界経済成長率が2018年は3.0%、2019年は2.9%と緩やかな減速を想定。</li> </ul> <p>&lt;国内鉄鋼需給&gt;</p> <p>（生産）・18年11月の粗鋼生産は前年同月比減（▲0.5%）の866万tとなり、3ヶ月連続の減少。</p> <p>（出荷）・11月の普通鋼国内向け出荷は42万トン（前年同月比+3.7%）で2ヶ月連続の増加。一方、輸出向け出荷は185万トン（同▲9.0%）と2ヶ月ぶりに減少。</p> <p>（在庫）・11月末の普通鋼鋼材国内向け在庫は557万トン（前月比▲30万トン）、2ヶ月連続で減少。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・11月末の薄板3品在庫は414万トン（同▲12万トン）、2ヶ月連続で減少。</li> <li>・11月末の厚板シャワー在庫は38万トン（同+1万トン）。2ヶ月ぶりに増加。</li> </ul> <p>〔建築〕・11月の新設住宅着工戸数は8.4万戸（前年同月比▲1%）で2ヶ月ぶりの減少。持家・分譲が増加し、貸家が減少。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・非住宅着工床面積は371万㎡（同▲9%）で2ヶ月振りの減少。製造業・サービス業用は増も、商業用で減。</li> </ul> <p>〔自動車〕・12月の国内販売は38.8万台（前年同月比▲2%）で3ヶ月ぶりの減少も、4-12月では前年比+2%の増。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・11月の完成車輸出は43.1万台（同▲2%）で2ヶ月ぶりの減少。4-11月では前年比+1%の増。</li> <li>・10月の四輪生産は88.4万台（同+6%）で2ヶ月ぶりの増加。</li> </ul> <p>〔造船〕・12月の新造船受注量は130万GT（前年同月比+54%）の受注。18年12月末の手持工事量は2,586万GT（同▲6%）と漸減継続。</p> <p>3. 輸出入動向</p> <p>〔輸出〕・11月の全鉄鋼輸出は297万トン（前年同月比▲7%）で2ヶ月ぶりの減少。中国、台湾で増加、米国、韓国等で減少。</p> <p>〔輸入〕・11月の鋼材輸入（普通鋼・ステン鋼・その他合金鋼計）は45万トン（前年同月比▲4%）で2ヶ月ぶりの減少。</p> <p>韓国は2ヶ月連続増（同+1%）、中国は2ヶ月ぶりに減少（同▲28%）、台湾も2ヶ月ぶりに減少（▲27%）。</p> <p>4. 海外市場動向</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・11月の世界粗鋼生産は、中国や米国で前年同月比増加、1億4,861万トン（前年同月比+6%）となった。</li> <li>・11月の中国粗鋼生産は7,762万トン（前年同月比+11%）、日当たり259万トン。冬期減産規制の影響で前月比では▲6%。</li> <li>・11月の中国鋼材輸出は530万トン（前年同月比▲1%）、3ヶ月ぶりに前年同月比減。前月比では2ヶ月連続減。</li> </ul>